

授業概要

テレビや新聞、インターネットのニュースでは、連日、ロシアによるウクライナへの侵略、コロナ感染者数、貧困や格差の拡大、移民・難民、紛争など世界各地の出来事が報道されている。授業では、グローバル化に伴い途上国で起こっている諸問題を読み解く。“途上国”という言葉で一括りにできない多様な要素を持つ発展途上国の開発や貧困を、経済・社会・政治・法といった多面的な次元から認識する経済開発論が中心である。

発展途上国の開発に永年関与してきた世界銀行は、途上国を一人当たり国民所得が低い順に、低所得国、下位中所得国、上位中所得国に分け、先進国を高所得国と呼んでいる。上位中所得国にほぼ対応した国々を指して、中進国と呼ぶこともある。授業では、途上国に対する学生の関心に応えつつ、考える力を引き出す開発経済学の基本理論を講義する。

授業計画

第1回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について解説する。
第2回	地域研究とグローバル・サウスについて講義する。
第3回	地域研究のアプローチについて講義する。
第4回	グローバル・サウスと「途上国」について講義する。
第5回	貧困の系譜と地域研究について講義する。
第6回	貧困削減の機会か？土地収奪か？について講義する。
第7回	ドイツにおける難民問題について講義する。
第8回	「移民問題」「難民問題」の起源について講義する。
第9回	北の大地のベトナム人について講義する。
第10回	紛争とはどんなものだろうかについて講義する。
第11回	南スーダン・実体と虚構のはざまを生きるについて講義する。
第12回	「沖縄問題」をつきくずす地域研究の視点について講義する。
第13回	グローバル・サウスと開発援助について講義する。
第14回	地域研究をジェンダー化する試みについて講義する。
第15回	国家再編成における教育政策と国際支援について講義する。
第16回	筆記試験。

到達目標

- 1.世界の出来事に対する具体的な問題設定や調査の実践方法を示す
- 2.今日本にいる自分たちと世界の出来事とが、どのように結びついているかについて考えるために、その視点と具体的な方法を提示する。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出る途上国の開発や貧困を、経済・社会・政治・法といった多面的な次元から認識し、途上国の経済実態や課題について質問や議論に積極的に取り組んでほしい。試験及びレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後 30 分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

予習・復習

授業のレジュメを把握し、教科書の該当箇所と新聞・WEB サイトの途上国経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

学期末試験 70%、授業内レポート 20%、受講態度 10%。

テキスト

- ・教科書名：『地域研究へのアプローチ—グローバル・サウスから読み解く世界情勢』
- ・著者名：児玉谷史朗/佐藤章/嶋田晴行
- ・出版社名：ミネルヴァ書房
- ・出版年 (ISBN)：978-4-623-09093-8